

昔の技術でやってみました!

連載を終えて

私が本連載の企画主査を務めるようになったのは、学生編集委員として初めての班会議に臨んだ際のあるひと言がきっかけであった。当時は次の新連載をどのようなテーマにするか議論を進めている時期であり、その候補の一つとして「昔の技術を紹介する」という内容が議題に上っていた。「ただ単に昔の技術を紹介するのではなく、実験も併せて実施すれば、昔の技術者の苦労や技術レベルの高さが伝わるのではないですか?」このひと言がきっかけとなり、私が企画主査を務める形で、本連載「昔の技術でやってみました」がスタートした。

正直な話をする、本連載は苦勞の連続であった。そのことは、「1月スタート、12月終わり」のきれいな12回を計画していたにもかかわらず、2回の休載を挟んで今月2月号で連載の終了を迎えたことから想像していただけるだろう。本連載では、一つの技術を2ヶ月にわたって取り上げ、前半で紹介、後半で実験という連載形式を採用した。紹介記事を執

筆する際の取材も大変ではあったが、特に実験パートでは、実験場所、実験道具などを準備するだけでなく、大掛かりな実験のために多くの人員を確保しなくてはならなかった。そのため、毎回実験の記事には、各学生編集委員の大学の技術指導員の先生方や所属する研究室の学生さんの写真が誌面を飾るようになった。そんな写真を見るたびに、多くの方々の協力を得て本連載は築き上げられているのだと熱い思いが込み上げてきた。

幸いなことに、本連載を読んでいたいた読者の皆様からは、「土木の本質を感じた!」「次回が楽しみだ!」など、温かいコメントを多数いただき、われわれを勇気づけていただいた。また、大変ながらも実際に自分たちの手を動かして当時の技術の再現を行ったことで、現代まで土木技術を支えてきた偉大な先輩たちの想いを感じることができた。

今月号を持って本連載は終了となるが、現在の豊かな日本は偉大な先輩技術



者たちの努力の結晶であることを忘れず、われわれも日々精進していきたい。

最後になりましたが、われわれの取材や実験に対して惜しみないご尽力をいただきました皆様に、心より感謝いたします。ありがとうございました。

(澤村康生)

編集企画主査 澤村康生
編集企画担当 学生班

昔の技術でやってみました! 連載一覧

第1回、第2回	江戸~明治時代の石橋技術
第3回、第4回	武田信玄の水制技術 一聖牛一
第5回、第6回	中世の古道整備技術
第7回、第8回	江戸時代の灌漑技術
第9回、第10回	江戸時代の測量技術
第11回、第12回	江戸時代の肥溜め技術